

2022年5月17日

関西学生ヨット連盟加盟大学活動ガイドライン

関西学生ヨット連盟

このガイドラインは 2022 年関西学生ヨット連盟に加盟する大学ヨット部の活動時における新型コロナ感染対策ガイドラインとして作成する。

◆作成趣旨

新型コロナウイルスは、2022 年に入りオミクロン株が主流となり、2020 年当初に比べ弱毒化し、通常の風邪と症状が同程度と推測される。しかしながら、これまでのインフルエンザと違い、季節性ではなく通年であり、変異株が次々と出てくること、ワクチンが半年程度で効果が薄れるなど、流行が一向に収束する気配がない。また、無症状陽性者が多く、感染経路を特定することは難しいため、感染を完全に防ぐことは不可能と考えている。

当連盟としては、これまでの感染予防の強化から、感染拡大防止・クラスター防止に視点を変え、さらにマスク着用リスクである熱中症の予防、さらには陽性者及び濃厚接触者のメンタルヘルスケアを意識した活動ガイドラインを作成する。

これは関西学連としての最低限の対策を示すものであり、加盟大学それぞれの新型コロナ感染対策としてより厳しい要請がある場合は、そのそれぞれの要請事項を遵守すること。

◆基本的な行動

- ・手洗い・うがいの徹底、アルコール消毒、室内換気の徹底
特に手洗いはしっかり行うこと（ウイルス性腸炎はアルコール消毒では予防できない）
- ・応援、エール、掛け声などを行わない。
マスクをしていても、大声を出すことは近隣住民の理解が得られないと考えられる。
- ・少しでも体調が悪い者、のどに異常を感じている者はハーバーへの出入りを禁止し、部活動を自粛すること
- ・飲食については、飲みまわし、食べまわしの禁止、飲酒は控え、騒がない、大声で会話しない、黙食を基本とし、多人数での会食は控える
- ・タオルの共用は避けること

◆移動方法

- ・通部に関しては、自宅～ヨットハーバー間の移動途中、できる限り他の場所に立ち寄らない。
- ・複数人で移動せず、できる限り一人での行動とする。
- ・自転車、オートバイク、自動車（相乗りはしない）での移動は望ましいが、公共交通機関を使用する場合は必ずマスクをして乗車するものとする。

◆更衣

- ・3密(密閉空間・密集空間・密接場面)を可能な限り回避し、人数制限を行うなど交代で更衣を行うことが望ましい。
- ・触れる(触れた)場所はアルコール性除菌剤で消毒を行う。
- ・更衣中はマスク着用、会話禁止で密にならないように注意する。
- ・室内は換気を行い、空気が滞留しないように心がける

◆艇庫やハーバーへ入った時、陸上での行動

- ・石鹸での手洗い、手指のアルコール消毒を行い、体温測定を実施する。
- ・体温が 37.5°以上の者、体調に少しでも不調を感じている場合はハーバーへの出入りを自粛する、無理をしている部員を見つけたら即帰宅させる、を徹底すること。
- ・陸上では常にマスクを着用する(ただし、熱中症の危険が高まる気温 25°以上の日は熱中症にならないように適宜対応する)。
- ・ソーシャルディスタンスを守る。
- ・ミーティングは、短時間で終わらせるようにする。また、できる限りオープンエアでマスク着用し実施することを推奨する。室内で実施する場合は、マスク着用の上、適宜(30分程度に1回数分間程度)換気を行い、空気を滞留させないこと。信頼できるCO₂濃度センサーの使用などにより、室内CO₂濃度1000ppm未満に保つことが推奨される。
- ・陸上トレーニングについては、熱中症の危険の観点からマスクは外して屋外で行うこと、室内で行う場合は熱中症に十分注意の上マスクをする、周りとのソーシャルディスタンスをとった上で実施すること。

◆海上での活動

- ・練習中のマスク着用は、熱中症リスクを高めるため推奨しない。
- ・レスキューボート上では原則マスク着用を推奨するが、熱中症リスクを考え脱着を行うことは適宜行うこと。また乗員数の制限を行わない。
- ・笛は共用で使用しないこと、自分の個人笛を使うこと
- ・タオルの共用、ペットボトルでの飲み回しを行わないこと。

◆艇庫の利用について

- ・室内はアルコール消毒をこまめに行うこと
- ・艇庫への複数名での寝泊まりはできる限り行わない。
合宿を行う場合、感染対策を徹底すること。
- ・艇庫内での食事については、調理する場合は必ずマスクを着用し飛沫が飛ばないようにする。食事中は黙食で行うこと。
食器の共用、給仕は複数の者が行わないように心がけること

- ・シャワーなどの利用については、特に制限を設けないが、複数人が同室で利用する場合は、会話せず離れて利用すること。
- ・トイレ利用については、特に制限を設けないが、消毒はこまめに行うこと。

◆部員に陽性者、濃厚接触者が出た場合

- ・主将、主務、監督などに連絡し、濃厚接触者に該当する者がいないかを調査。
- ・各大学指導者もしくは各大学学連委員 → 学連委員長 → 学連理事長 → 事実関係を連絡する。
- ・陽性者及び濃厚接触者の判断は、保健所、医療機関、大学などにて行う。
- ・濃厚接触者がいない場合と判断された場合は、陽性者を除き、特に活動制限を設けない。
- ・同居の親族などに濃厚接触者が出た場合は、該当する部員の検査を持って陰性であれば特に活動制限を設けない。

◆陽性者及び濃厚接触者へのメンタルヘルスケアについて

陽性及び濃厚接触者となった学生は、自責の念にとらわれることが容易に想像できる。下級生が当事者となった場合、また目標にしているレースに出場できなくなった場合、本人のストレスは相当なものと推測する。

そういったことに起因しての学生内トラブル起こらないように、平常時から各校においてケースを想定した対応策を上級生中心に事前検討しておくことが重要である。

また、指導者の方々も容易な判断をせず、メンタルヘルスケアに視点をおいた相談、対応をして頂きたい。

◆ワクチン接種については、推奨するが、個々人の判断に任せる。

◆関西学生ヨット連盟主催の大会開催中における基本的な注意点

- 大会1週間前から体温測定をし、当日も平温であること。
- 陽性者及び濃厚接触者、体調がよくない者（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）は大会参加を見合わせる事。
- 外国からの入国（帰国）の場合については、厚生労働省HPに記載される自宅待機期間の該当する場合は大会参加を見合わせる事。
- マスクを持参し、陸上では原則マスクを着用すること。ただし、熱中症リスクは当日の気温などを考え避ける行動をすること
- うがい、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- 他参加者、主催者スタッフ等との距離を確保すること（できるだけ2m以上／障害者の誘導や介助を行う場合を除く）。
- 大会開催中は大きな声での会話、応援（エール、校歌斉唱）等をしないこと。

○感染拡大防止のために主催者が決めたその他の措置を遵守し、主催者の指示に従うこと。

○大会終了後 7 日以内にコロナ陽性となった場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

◆今後の対応基準の変化については、都度本活動ガイドラインを修正していくこととする。

以上

※今年に入り、他水域ではコロナ陽性者が出たため、定期戦、公式戦の出場を辞退する大学が相次いで出てきている。今後全日本につながる大会が増えるので、加盟各校は日頃より十分注意をし、活動していただきたい。